

# コロナ禍で挑むサステナビリティ推進、そしてNPO支援

多くのビジネスパーソンがリモートワークにシフトした2020年、サステナビリティ推進活動の中断を余儀なくされた企業は少なくないはずだ。

日立も例外ではなく、紆余曲折の末、なんとか活動の再開に漕ぎ着けた。

本稿では、日立の情報通信部門のサステナビリティ推進活動を牽引している担当者へのインタビューに、2021年度にオンラインで実施された活動「企業プロボノ」のレポートを交え、コロナ禍における取り組みを紹介する。

## サステナビリティ推進活動の担当者は、コロナ禍をどう乗り越えたのか

### 活路は「選択と集中」、 「オンラインコミュニケーションの活用」

「ワークショップやプロボノ\*など、社員のサステナビリティマインドを醸成する活動はどれも対面でのコミュニケーションが核となる設計でした。2020年4月、在宅勤務に切り替わったことで、その年間計画がすべて白紙となってしまったのです」



日立製作所 菊間里枝

務に切り替わったことで、その年間計画がすべて白紙となってしまったのです」

\*企業で働く人が本業のスキルを活かし、NPOをはじめとする公益団体の活動を支援する社会貢献活動

そう振り返るのは、日立の情報通信部門のサステナビリティ

推進を担当している菊間里枝だ。菊間は改めて活動の意義を問い直すとともに、コロナ禍だからこそ社員に提供すべき価値を模索。社内の関係者や社外の協働パートナーとのブレインストーミングをひと月近く重ねた末に

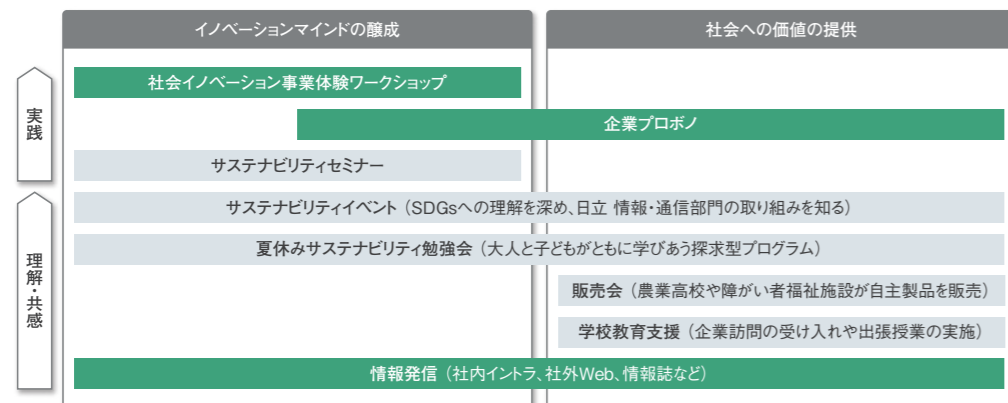


図1: 日立の情報通信部門が2020年度に計画していたサステナビリティ推進活動の一覧。緑色の部分が実際に行った活動

導き出した方針が、コロナ禍において実施すべき活動の選択と集中。そして、オンラインコミュニケーションを活用した内容の再構築だった。

「チームビルディングやワークショップをオンラインで行うニーズが社内できっと高まっていくはず。また、コロナ禍だからこそ社員が自分と社会、社会と仕事との接点に改めて気づく機会を提供できるのでは」そう考えた菊間は、2020年度の活動を3つに絞り込んだ(図1参照)。

### 在宅勤務でも下がらなかった、 企業プロボノのモチベーション



2020年度の企業プロボノで森林保全をしているNPOを支援したチームは、その活動の現場を自主的に視察した

2020年度に菊間が実施した活動の1つが、2016年度から採り入れている「企業プロボノ」だ。日立では、社員4~5人のチームが2カ月半という短期間で、NPOをはじめとする公益団体が抱える課題の解決に取り組む。2020年度はこれをフルオンラインで実施したが、初めは不安があったと菊間は

明かす。

「支援先団体の活動を実際に見ることができず、社会課題の現場を体感できないため、参加社員が社会課題を自分事として理解できるか、不安がありました」

しかし、その懸念は杞憂に終わる。それまで通勤に割いていた時間を有効に使えるようになったことで、社員と支援先団体とのコミュニケーションが密になり、社会課題への理解を深めることができたと言う。なかには、NPOの活動の現場へ自主的に足を運ぶほど熱量の高いチームもあり、支援先への最終提案は例年に遜色なくクオリティが高かったと菊間は語る。

## NPOの課題を再整理し、解決策を提案。 2021年度企業プロボノ

### オンラインで支援し続けた2カ月半

コロナ禍が続く2021年度の企業プロボノも基本的にはオンラインでの実施となった。14人の参加者が3チームに分かれ、9月下旬から支援をスタートした。団体の職員や、利用者をはじめとするステークホルダーへのヒアリングを通じて課題とニーズを掘り起こし、11月初旬に解決策の中間提案を実施。団体からのフィードバックをもとにブラッシュアップを重ね、12月初旬に最終成果物を団体に納めるといった流れだ(図2参照)。

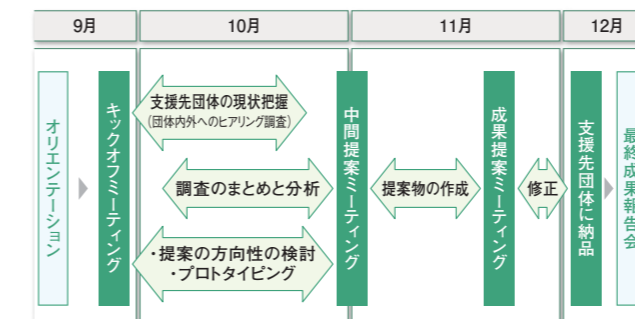


図2: 企業プロボノプロジェクトの進め方例

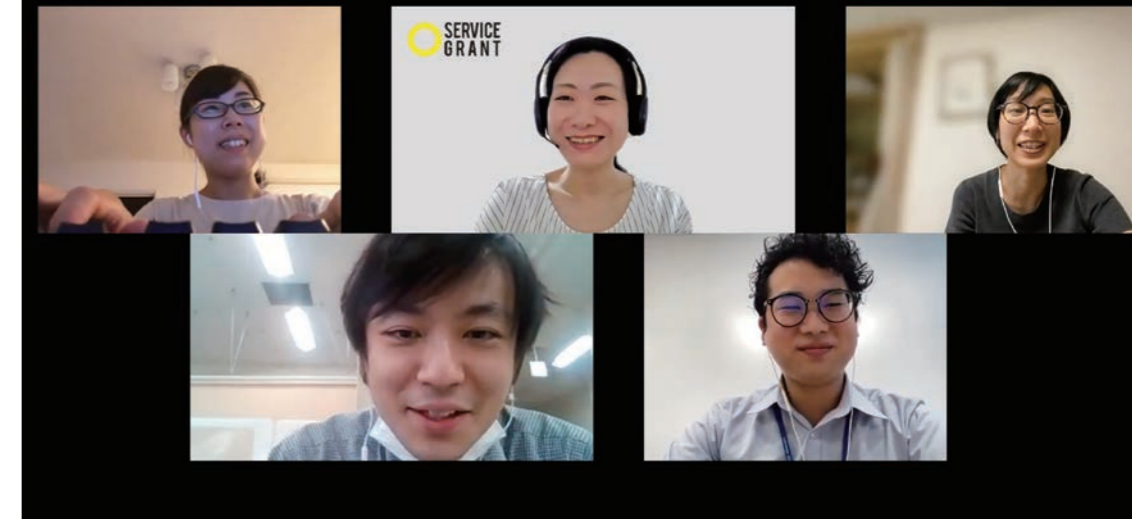


日立製作所 情報通信部門のサステナビリティサイトはこちらから。  
<https://www.hitachi.co.jp/products/it/sustainability/index.html>



本誌にはダイジェスト版を掲載しました。社員、支援先団体、運営団体の各視点から語ったフルバージョンをWebマガジン「Executive Foresight Online」に掲載しています。  
[https://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/\\_ct/17526099](https://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/_ct/17526099)

オンラインで行われた2021年度「企業プロボノ」のミーティングの様子



## 企業プロボノを通じて、社員が得た気づき

団体名称	活動概要	主な支援内容
認定NPO法人スマイルオブキッズ	病気や障がいのある子どもとその家族を支援	利用者データのオンライン化に向けた情報整理
社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ)	国境を越えた養子縁組や外国籍の人々を支援	利用者データベースの再定義
一般社団法人 ランク045	横浜市内の子育て団体を中心とするネットワーク組織	会員管理のためのクラウド活用

2021年度は上記3団体を支援した。このうち、認定NPO法人スマイルオブキッズを支援した社員が企業プロボノで得た気づきの一部を紹介する。

常に受益者を第一に考えるNPOの方々の熱量に接し、B to Bの先にある社会を見据えて価値を生み出していくと改めて思った。

相手にとってそもそも何がうれしいのかを念頭にプロジェクトを進めることの大切さを学んだ。

提示された要件に対して提案するのではなく、まずは相手の本音を引き出して課題を明らかにするという、普段の業務とは違う経験ができた。

チームビルディングの際にメンバーの強みや興味関心がどこにあるのかを意識することの重要性を学んだ。今後もチームで業務に取り組む際に、活かしていきたい。

仕事のスキルを活かして公益団体の活動を支援し、社会課題の一端に触れ、多くの気づきを得ることができた社員たち。その2カ月半の詳細は、Webマガジン「Executive Foresight Online」でお読みいただきたい。